

宮川右岸堤防（桜堤）の改修事業について

堤防整備
計画区間

平成27年 3月 2日(月)

国土交通省三重河川国道事務所

1. 宮川右岸堤防(桜堤)改修事業の進め方について

H24.3月～4月

宮川右岸堤防改修対策協議会 ＜伊勢市整備課＞

【目的】
宮川右岸堤防の改修計画内容について国及び地元関係者相互の意見調整を図る。

【構成メンバー】
地元自治会長他4名、漁協組合長、宮川保勝会会長、伊勢商工会議所常議員、伊勢市観光協会部長、伊勢郷土会会長、学識者（中部大学松尾教授）、伊勢市

H24.12月～H25.2月

地元説明会 アンケート・パブコメ

H25.10月～H26.3月

宮川右岸堤防改修景観検討委員会 ＜三重河川国道事務所＞

【目的】
宮川右岸堤防の改修工事内容の最終調整とフォローアップを含め、事業内容を検証する。

【構成メンバー】
地元自治会長、町内会長、学識者（中部大学 松尾教授、三重大学 浅野准教授、皇学館大学 岡田教授）

H26.2月

地元説明会 アンケート・パブコメ

H24.2月

改修計画（たたき台）

H24.4月

宮川堤防改修計画(案)

H26.1月

宮川堤防改修計画(修正案)

H26.3月

宮川堤防改修計画 策定

H24.7月～H26.1月

名勝宮川堤保存管理指針 策定委員会

＜伊勢市教育委員会＞

【目的】
名勝宮川桜堤を適切に保存、管理を行うために必要な基本方針、方法等の指針を策定する。

【文化財保護条例、景観法の通知内容（改修方針）を検討】

【構成メンバー】
学識者3名、宮川保勝会会長他1名、楠奉賛会会長
（関係機関）国、三重県教育委員会、伊勢市都市整備部

【宮川堤の関係法令等】
昭和12年6月に三重県名勝「宮川堤」に指定
○三重県文化財保護条例：行為の規制（許可済）
○景観法：風致地区指定による行為の規制（通知済）
伊勢市風致地区内における建築等の規制に関する条例：行為の規制（協議済）

2. 宮川右岸堤防(桜堤)の環境に配慮した改修計画について 三重河川国道事務所

◆ 宮川右岸堤防(桜堤)の現状と課題について

- 宮川右岸堤防(宮川桜堤)は、歴史的土木遺産、文化遺産を内在し、三重県の名勝指定を受けた景勝地であるが、堤防の安全性が不足するため、早急に堤防を強化する必要がある。

宮川桜堤の歴史的・景観的特徴

- 宮川桜堤は、江戸時代から桜の名所として有名であり、三重県の名勝都に指定されています。



春の宮川堤と駿河堤 (貞享2年・1685)



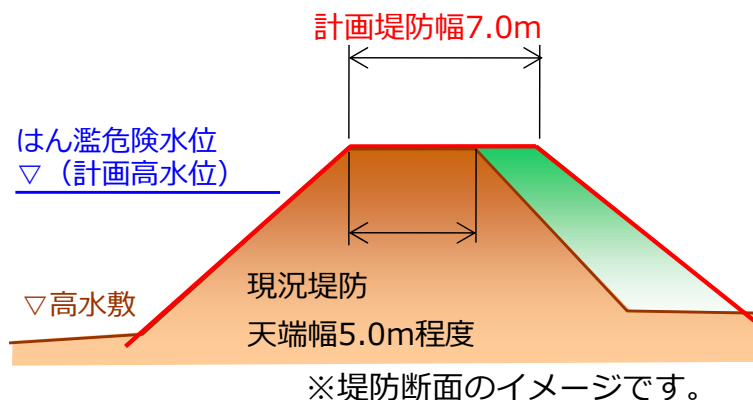
棒堤 (寛保2年・1742)



周防堤 (元禄15年・1702)

現在の宮川桜堤の安全性について

- 宮川桜堤は安全性が不足しているため、早急に堤防を強化する必要があります。



宮川桜堤の桜について

現在の宮川桜堤の桜は、老齢期を迎えているので、枯死や倒伏により、堤防の弱体化を招く恐れがあります。



テング巣病に感染して縮れた枝



寿命を迎え枯死した桜

近年の災害状況



漏水の発生 (H16年9月洪水)



ガマの発生 (H23年9月洪水)

◆ 宮川右岸堤防（桜堤）改修計画の位置づけ

- ・ 堤防改修計画は、宮川と伊勢歴史の道を軸にして、伊勢市の計画や土地利用規制等と計画調整を図り、伊勢や宮川の歴史や景観を将来に継承し、周辺地域の「にぎわい・活性化」に発展する整備を目指す。

宮川右岸堤防（桜堤）改修事業箇所

伊勢街道

桜の渡し跡

伊勢本街道
熊野街道

柳の渡し跡

伊勢歴史の道



※ 観光ルートの開発や散策
ルートの位置づけは、今後
検討する。

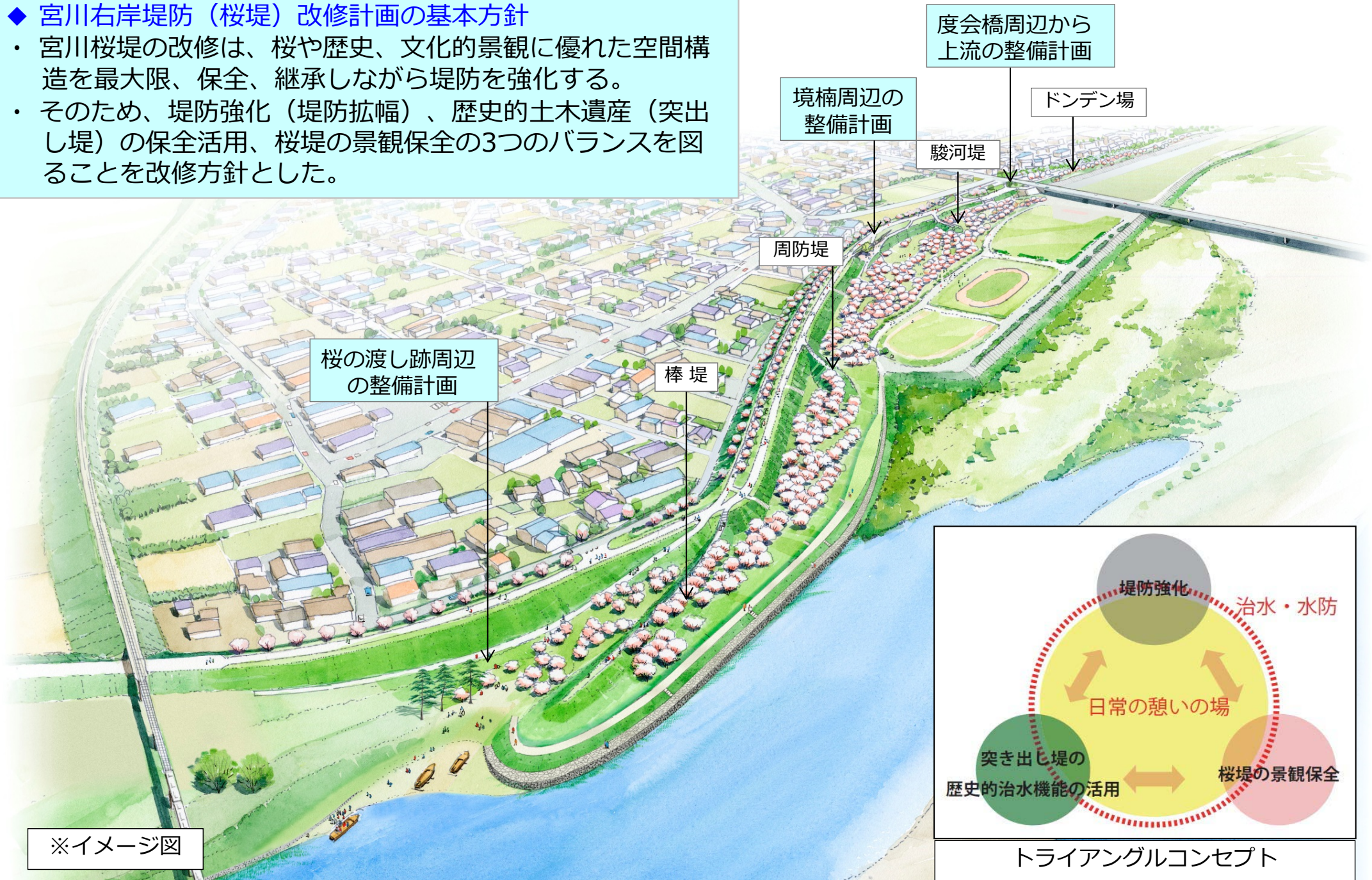


出典：伊勢市都市マスタープラン

宮川右岸堤防(桜堤)改修計画の基本方針

◆ 宮川右岸堤防(桜堤)改修計画の基本方針

- 宮川桜堤の改修は、桜や歴史、文化的景観に優れた空間構造を最大限、保全、継承しながら堤防を強化する。
- そのため、堤防強化(堤防拡幅)、歴史的土木遺産(突き出し堤)の保全活用、桜堤の景観保全の3つのバランスを図ることを改修方針とした。



※イメージ図

トライアングルコンセプト



宮川の渡し 歌川広重 (かめやま美術館所蔵)



高水敷から水際への
アクセス階段の整備

高水敷の宮川堤公園と桜
の渡し跡の広場をつなぐ
散策路 (TP4.0m)

低水護岸天端の水際の散
策路 (TP2.0m)

州浜

※イメージ図

- ◆桜の渡し跡周辺の整備計画
- ・低水護岸とあわせて、新しく水辺の散策路を整備する。
- ・自然石の低水護岸を棒堤下流で巻込んで、自然な州浜が形成されるようにする。
- ・広場や植樹の具体的な計画については、今後伊勢市が検討する。

◆ 境楠周辺の整備計画

- ・ 境楠、大日権現社は現在の位置に保全する。
- ・ 境楠周辺に小広場とスロープを整備する。



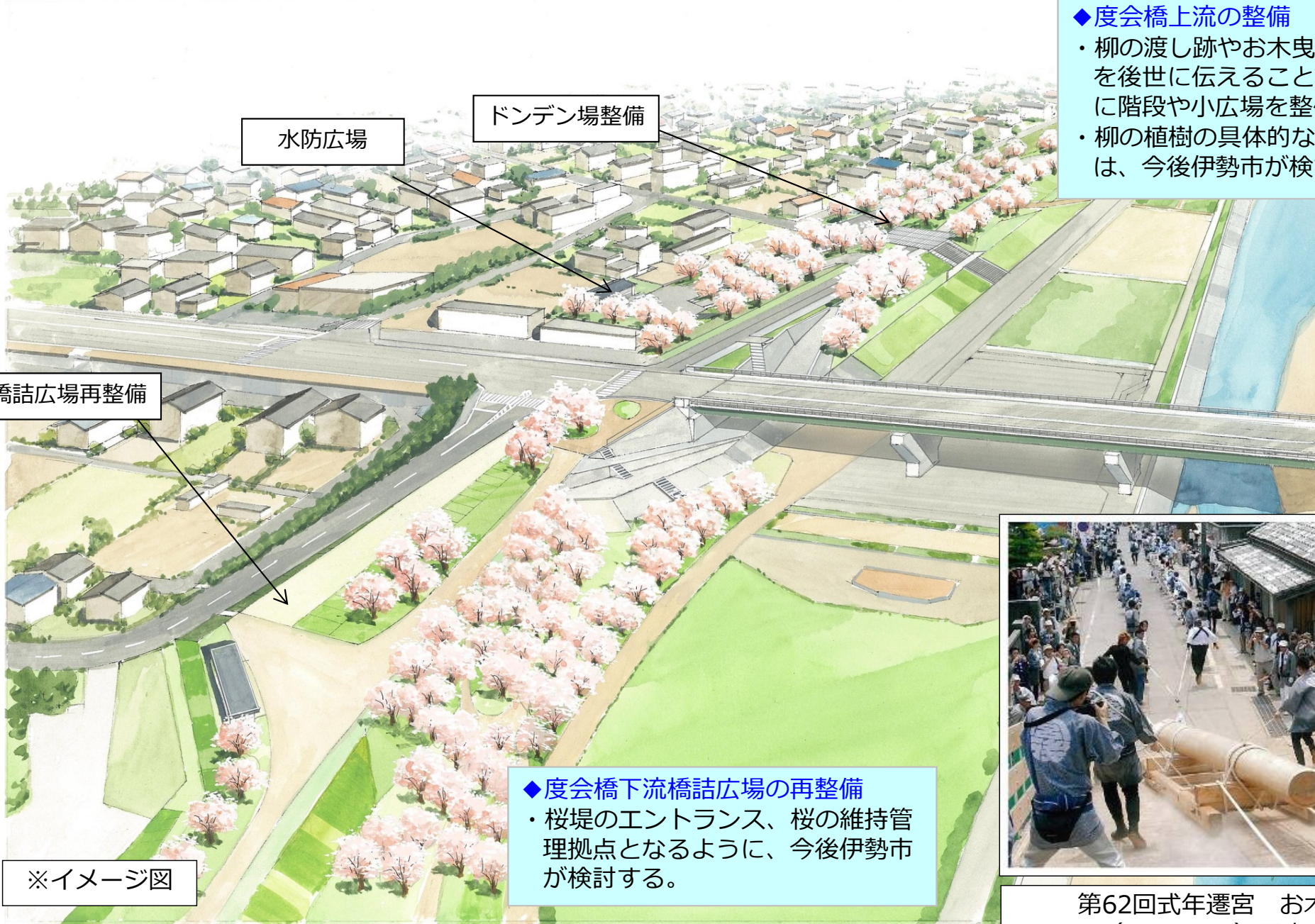
境楠：小広場、スロープの整備

大日権現社

スロープ (新)

名勝 宮川堤

※イメージ図



水防広場

ドンデン場整備

橋詰広場再整備

※イメージ図

◆度会橋上流の整備

- ・柳の渡し跡やお木曳き行事の歴史を後世に伝えることができるように階段や小広場を整備する。
- ・柳の植樹の具体的な計画については、今後伊勢市が検討する。

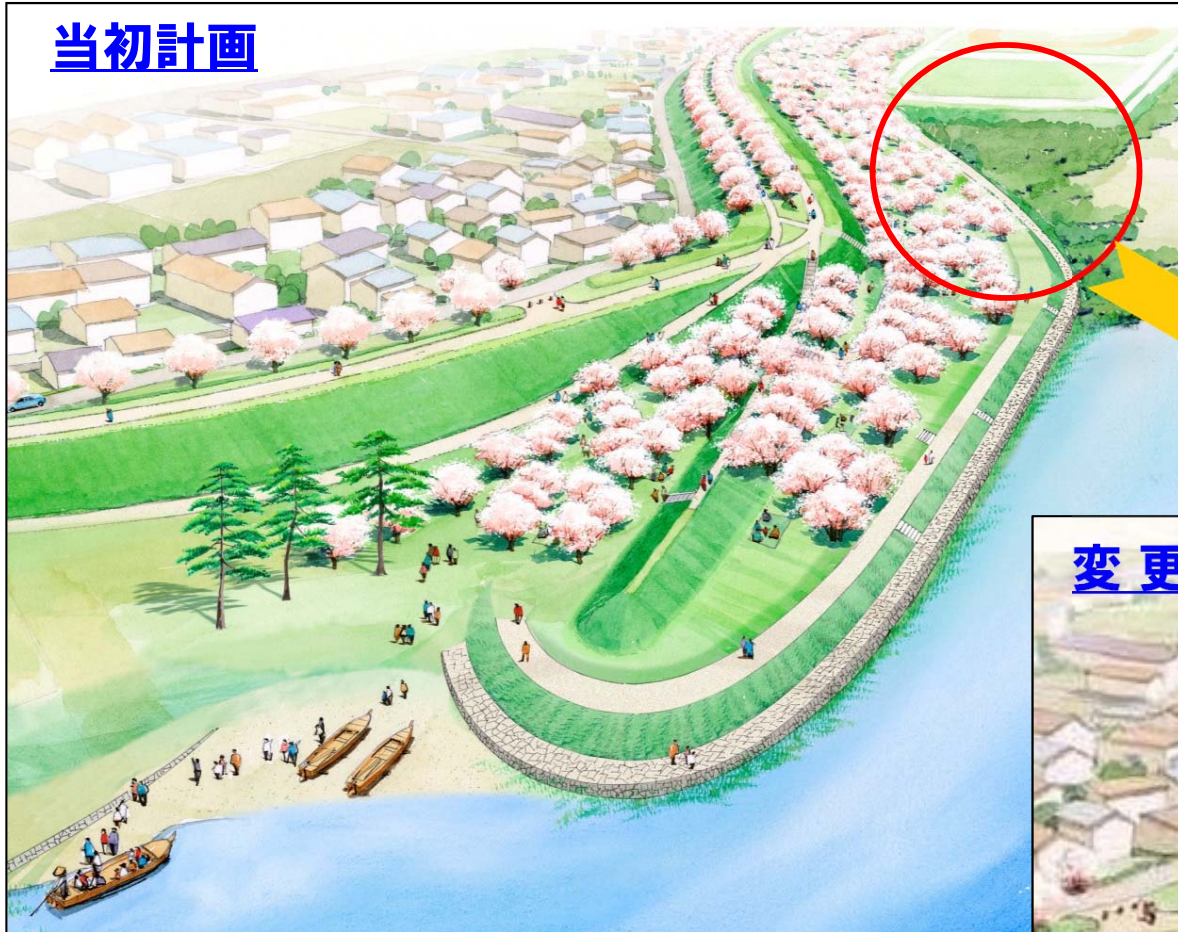
◆度会橋下流橋詰広場の再整備

- ・桜堤のエントランス、桜の維持管理拠点となるように、今後伊勢市が検討する。



第62回式年遷宮 お木曳き行事 (H18, 19) 写真：伊勢市

当初計画



◆低水護岸の線形の変更

- ・ゴミの堆積防止対策と経済性を考慮し、上流側の既設低水護岸を延伸し連続性を確保する。
- ・散策路を水際に配置し、動線を誘導する。
- ・メダケ群落を保全し、高水敷を有効利用する。

変更後



1. 宮川堤周辺の桜の本数(現況本数～将来の本数)

全体計画			H26年度までに実施した桜の撤去及び植樹	
各桜の本数	詳細	対象箇所及びその本数	本数	内訳
① 現況の桜 742本		桜堤事業区間 742本		
② 撤去する桜 224本	伐採 175本 移植 49本	桜堤事業区間 224本	182本	伐採133本 移植 49本
③ 保全する桜 518本	①-②	桜堤事業区間 518本		
④ 植樹する桜 190本	移植 49本 植樹 141本	桜堤事業区間 128本 浅間堤周辺 42本(植樹5+8=13、移植29) 左岸高水敷 20本(移植)	98本	桜堤事業区間36本 浅間堤周辺42本(植樹5+8=13、移植29) 左岸高水敷20本(移植)
⑤ 将来の桜 708本	③+④	桜堤事業区間 646本 浅間堤周辺 42本 左岸高水敷 20本		

2. 桜堤事業区間の各エリアにおける桜の植樹(補植)種類と本数

◆ 種類は、地元住民の皆さんのご要望を聞き決定

エリア	位置(区間)	特徴	保全する堤防敷の桜 (突出堤部は除く)		植樹(補植)する桜		植樹実施済み (H26年度まで)	植樹実施予定 (H27年度以降)	
			場所	本数	種類	場所	本数	本数	本数
A	高水敷(棒堤下流)	桜の渡し跡 (シンボルの松植樹予定)	高水敷(死水域)	—	ソメイヨシノ	高水敷	13	—	13
B	JR～棒堤	桜の渡し跡周辺 宮川橋の改築後、整備予定	堤防川裏 (上流側坂路上流)	8		側帯(平場)	20	—	20
C	棒堤～周防堤	桜のトンネル復元	堤防川裏	15		側帯(平場)	13	13	0
D	周防堤～境楠	桜のトンネル復元	堤防川裏	32		側帯(平場)	13	13	0
E	境楠～度会橋	橋詰広場より下流への桜散策 ルートの入り口 今後、橋詰広場周辺整備について は今後検討予定	堤防川裏 (境楠～駿河堤)	11	横輪桜	側帯 (平場・法面)	12	10	2
			堤防川表 (駿河堤上流)	27					
F	度会橋より上流	水防広場等整備予定	堤防川裏 (上流側坂路上流)	3	ソメイヨシノ	側帯 (平場・法面)	57	—	57
			堤防川表	38					
合計				134			128	36	92

◆宮川桜堤植樹式（H27.2.15（日））

- ・伊勢市と地元中島学区まちづくり協議会の共催により、地域住民が桜堤を守っていく決意として植樹式を開催しました。



式典の状況



植樹の状況

桜33本を植樹

伊勢 宮川桜堤改修工事中の宮川桜堤

【伊勢】「中島学区まちづくり協議会」のまちづくり協議会（木野本勝 会長）と伊勢市は十五日、昨年四月から洪水対策の改修工事を行っている同市の桜の名所「宮川桜堤」に、地元選出の三ツ矢憲生（ノメイヨシノ）二十六本と横輪七本の計三十三本を植樹した。

度会橋から宮川橋まで約一・一キロの堤防幅と周辺の環境整備を実施している。三重河川国道事務所は工事のため約八百本ある桜

の枯死した場所を勝で、日本さくら会所にも選ばれている。改修工事では、一部の木を伐採する代わりに、新たに植樹を進めて桜木の保存を図る。【新井 四



桜を植樹する関係者ら＝伊勢市の宮川桜堤で

区分	共通	河川	道路
中目	期日	日経	毎日
読売	産経	伊勢	建通
夕刊三重	三重 タイムス	建設通信	建設工業
ふるさと			
Page	(15)		版
27年	2月16日(日)	朝	夕

みるので、多くの人に桜をしてきた。見に来てもらえれば」と話



桜並木保存へ植樹

伊勢・宮川堤 地元住民150人参加し

洪水対策の改修が進められている伊勢市の桜の名所「宮川堤」で、市と住民組織の中島学区まちづくり協議会が、ノメイヨシノ26本と横輪七本の計33本を植樹した。

地元住民が自分たち

の枯死した場所を勝で、日本さくら会所にも選ばれている。改修工事では、一部の木を伐採する代わりに、新たに植樹を進めて桜木の保存を図る。【新井 四